

2017年5月17日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KJ セミナーニュース 458  
大学教職員のワーク・ライフ・バランス支援の実際  
～多様なキャリアの創造／「イクボス」宣言／制度拡充／プログラム化～  
ご参画・ご派遣のお願い

常に時代・社会の“半歩先”を歩むべき、あるいは歩みたい大学キャンパスにおいては、政府や民間企業が現在推進している“働き方改革”についても、その実現に向け先駆的な取り組みが求められております。しかし、日常の業務も多大な大学で、ワーク・ライフ・バランスをどこまで取り組むことができるのでしょうか。

そのために、理事・役員等のトップ層が現状に向き合い、認識した上で、より良い職場環境づくりに向けた、制度設計、環境整備、そして、制度が形骸化しないための意識改革を進めていくことが急務となります。

本セミナーでは、初めにワーク・ライフ・バランスとはどのような概念であり、なぜ必要であるのか、また、取り組みの具体的な進め方について、この分野の第一人者である、学習院大学の脇坂氏より基調講演を賜ります。

そして、大学における“働き方改革”を实践、また先進的な取り組みを各大学のキーパーソン各位からご報告いただきます。

地元自治体とともに、女子大学として初めて“イクボス”宣言をした、実践女子学園の周東氏からは、大学の男女共同参画推進組織における取り組みや教職員に導入しているフレキシブルワーク制度、さらに専任教員の業務軽減制度等について、成果とあわせてご報告を賜ります。

岩手大学の堀氏からは、妊娠から職場復帰後までを切れ目なく支援する「次世代育成支援職員制度」の内容と成果について、また、2か所居住をせざるを得ない教員に向けた「両住まい手当」等、柔軟な働き方を選択できる各種制度の内容やその実際について、ご報告を賜ります。

長崎大学の伊東氏からは、出産・育児・介護など、ライフイベントと仕事との両立を図り働きやすい環境を整える支援、そして、教員を対象としたワーク・ライフ・バランスに配慮した労働環境の実現、タイムマネジメントの意識改革を図る「働き方見直しプログラム」事業の実施等についてご報告を賜ります。